年間授業計画 様式例

年間授業計画 様式例

井草 高等学校 令和7年度(1学年用) 教科 国語 科目 言
教 科: 国語 科 目: 言語文化 単位数: 3 単位
対象学年組:第 1 学年 A 組~ G 組
教科担当者: (A, B, D組:中平)(F, 6組:新井) (C, E組:盛田)
使用教科書: (筑摩書房「高等学校 言語文化」
教科 国語 の目標:

【知 識 及 び 技 能 】社会生活に必要な知識・技能を身につけると共に、国語に対する理解を深める。 国語 科目 言語文化 単位数: 3 単位

【思考力、判断力、表現力等】論理的思考力を鍛え、豊かな想像力を育み、他者と互いに考えを伝え合う力を養う。

【学びに向かうカ、人間性等】幅広い読書を通して自己を向上させ、言葉を通して社会との関りを深める。

科目 言語文化 の目標:

| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技 能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に 対する理解を深めることができるようにする。 といてきるようにする。 は、我が国の言語文化の担い手としての自覚 を表し、は、我が国の言語文化の担い手としての自覚 をもち、言葉を通して他者や社会に関わろう | 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かうカ、人間性等】 |
|--|--|---|---|
| | 能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に 対する理解を深めることができるようにする。 | りする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う 力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりす ることができるようにする。 | 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚 |

| 느 | | | | | とする態度を養う。 | | | | | |
|------|---|--|----------|---|-----------|---|----------|---|---|-----------|
| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 | | | 評価規準 | | 思 | 態 | 配当 |
| | | | 話・聞 | 書 | 読 | | | | | 時数 |
| | A 『児のそら寝』 【知識及び技能】 古典を読むのに必要な文語のきま りや古典特有の表現について理解 を深める。 | ・指導事項 歴史的仮名遣いや古典特有の語 句、基本的な古典文法について理 解を深める。 ・教材 『児のそら寝』 ・一人1台端末の活用 等 | | | 0 | 知識及び技能 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古 典特有のさまざまな表現について理解を深め ている。 | 0 | | | 6 |
| | B 『絵仏師良秀』 【知識及び技能】 用言の活用について理解する。 【学びに向かうカ、人間性等】 良寿の人物像について積極的に理 解しようとしている。 | ・指導事項 用言の活用について理解を深めて いる。 ・教材 『絵仏師良秀』 ・一人1台端末の活用 等 | 0 | | 0 | 【知識及び技能】 ・用言の活用について理解し、活用形や活用 の種類について考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 説話を権権的に読み、登場人物の人物像に ついて読み取ろうとしている。 | 0 | | 0 | 8 |
| 1 学期 | C「漢文入門」 【知識及び技能】 漢文訓読などの基本的な漢文の知 識について理解を深める。 | ・指導事項 漢文の訓読について理解を深めて いる。。 ・教材 『絵仏師良秀』 ・一人1台端末の活用 等 | | 0 | 0 | 【知識及び注節】 ・漢文を読むために必要な、書き下しのきま りについて理解を深めている。 | 0 | | | 6 |
| 1 | 定期考査 | | | | | | 0 | 0 | | 1 |
| | D 『竹取物語』 【思考力、判断力、表現力等】 作り物語という文章の種類を踏ま えて、内容や展開を的確にとら え、作品に表れているものの見力 やえ力を捉え、内容を解釈す る。 | 指導事項 形容動詞 ・教材 「作取物語」 ・一人 1 台端末の活用 | | | 0 | 【思考力、判断力、表現力】 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内 容や展開を的確に捉え、内容を解釈してい る。 | | 0 | | 8 |
| | E 『羅生門』 【知識及び技能】 小説に用いられる話彙を増やす。 【思考力、判断力、表現力等】 老婆という人物を通した下人に変 化を読み取る。 | ・指導事項 人物の行動から心情の変化を捉える。 ・教材 『離生門』 ・一人 1 台端末の活用 等 | 0 | 0 | 0 | 【知識及び技能】 小説に用いられる語句について理解をしている。 【思考力、判断力、表現力】 行動や心情をもとに場面を捉え、老婆が下人に与えた影響を読み取っている。 【学びに向かう力、人間性等】 登場人物の心情を粘り強く読みとり、展開を | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | 定期考査 | | | | | 22.00 | 0 | 0 | | 1 |
| | F 『伊勢物語』 【思考力、判断力、表現力等】 ・話の中における和歌の役割を押 さえ、歌物語の特徴と読み解き方 を理解する。 ・内容や展開を的確に捉え、作品 のものの見方や考え方を捉え、内 | ・指導事項 本文中の和歌の働きを理解する。 ・教材 「芥川」 ・一人1台端末の活用 等 | | | 0 | 【思考力、判断力、表現力等】 ・詰め中で和歌が果たしている役割を押さ よ、歌物語の特徴と読み解さ方を理解してい る。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、内容 や展開を的確に捉え、作品に表れているもの の見方や考え方を捉え、内容を解釈した。 | | 0 | | 10 |
| | 窓を解釈する。 『更級日記』 【知識及び技能】 ・助動詞について理解を深める。 【思考り、判断力、表現力等】 ・女房文学としての日記文学を読 んで、記録としての日記文学を読 んで、記録としての日記文学を読 る表現方法と執筆意図を読み解 くる | ・指導事項 記録としての日記とは異なる表現 方法と随筆意図を読み解く。 教材 「東路の道の果て」「をかしげな る箱」 等 | | | 0 | る。 「知識及び技能】 ・古典に用いられる助動詞について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・有名な日記文学を読んで、記録としての日 記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解い ている。 | 0 | 0 | | 8 |
| | 定期考査 | | | | | | 0 | 0 | | 1 |
| 2 学期 | | ・指導事項 記録をしての日記とは異なる表現 方法と随筆意図を読み解く。 ・教材「門出」「帰京」 等 | | | 0 | 【知識及び技能】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古 無特有の表現、時間の経過などによる言葉の 変化について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・我が国最初の日記文学を読んで、記録とし での日記とは異なる表現方法と執筆意図を読 み解いている。 | 0 | 0 | | 10 |
| | 「事・本選」 【知識及び技能】 諸句・語彙の意味を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 滅石には珍しい幻想文学を読解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・登場人物の行動や心理を読み解 | - 指導事項 指導事項 情を理解する的確に捉え、登場人物 の心情を理解する。 ・教材『夢+夜』 等 | 0 | 0 | 0 | 【知識及び技能】 ・語句・語彙の意味や背景を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・行動や心理を基に揚面の展開を捉え、登場 人物の心情を読み取っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解 き、内容や展開を捉えようとしている。 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | 「死諸葛走生仲達」 【知識及び技能】 反語、否定、使役などの基本的な 句形を理解する。 【思考力、判断力、表現力】 司馬懿のことばに込められた思い を読み取る。 | ・指導事項 句形をもとに展開を捉え、司馬懿 の心情を理解する。 ・教材『死諸葛走生仲達』 等 | | | 0 | 【知識及び技能】 反語、否定、使役などの基本的な句形や再就 文字の書き下しを理解している。 【思考力、判断力、表現力】 比較的長い文章を、句形の知識をもとに正確 に読みとり、司馬懿のことばにどのような思 いが込められているかについて考えを巡らせ でいる。 | 0 | 0 | | 8 |
| | 定期考査 | | | | | | 0 | 0 | | 1 |
| 3 | ド 「平家物語」 「知識及び技能」 ・文語のきまりや古典特有の表現 について理解を深める。 【思考り、判断力、表現力等】 ・合戦を主題とした文学作品を読 み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを理解する。 | ・指導事項 合戦を主題とした文学作品を読 み、争いを背景として生まれた思 想や人間のありようを知る。 ・・ 一人1台端末の活用 等 | | | 0 | 知識及び技能 ・文語のきまりや古典特有の表現、時間の経 適などによる言葉の変化について理解を深め に思考力、判断力、表現力等 ・合酸を主題とした文学作品を読み、争いを 音製として生れた思想や人間のありようを 理解している。 | 0 | 0 | | 10 |
| 学期 | 「知識及び技能」 訓読のさまり、 古典特有の表現などについて理解 を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・表現や技法(押銀や対句) に留 意して漢詩を鑑賞し、そこに込め られた思いを読み取る。 | ・指導事項 表現や技法 (押韻や対句) に留意 して漢詩を鑑賞し、古代中国の 人が自然や人事に向けた思いを 読み取る。 ・教材「唐詩」 ・一人1台端末の活用 等 | | | 0 | 知識及び技能 ・訓読のきまり、古典特有の表現などについ ・訓読のきまり、古典特有の表現などについ で理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩 を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向 けた思いを読み取っている。 | 0 | 0 | | 10 |
| | 定期考査 | | | | L | | 0 | 0 | L | 1 |
| | | | | | | | | | | 合計 105 |
| | | | <u> </u> | | <u> </u> | L | <u> </u> | _ | _ | 100 |